

# 札幌市自立支援協議会

## 子ども部会ニュース

第3号 (2015年3月)  
発行 札幌市自立支援協議会子ども部会 事務局  
連絡先  
〒007-0836  
札幌市東区北36条東9丁目1-1  
TEL:011-776-6856 FAX:011-776-6857  
E-mail:muginoko@muginoko.com

### 今年度の子ども部会のまとめ

3年目を迎えた子ども部会も、少しずつ存在が関係部署に理解されてきたと思います。今年度当初は、札幌市の子ども・子育て支援事業計画や障がい者プランへの意見書の提出に関わりました。その後は、子どもに係わる機関同士の相互理解と連携を重視し、重心児に係わる機関の意見交換会や教育と福祉、医療の連携会議、社会的養護の必要な子に係わる機関同士の意見交換等の取り組みを各機関の協力と熱い思いを得て進めてきました。これまでは、横の連携を中心に進めて来ましたが、今年度は縦の連携を意図し、同じテーブルを囲み話し合いが出来たことは新たな一歩だと思います。特に、今年度の研修会は相談や就労部会と連携し、成人期から見た児童期支援とライフサイクル見通した縦の連携の大切さを意識しました。

次年度は、他の専門部会との連携や各地域部会の充実が大切になってくると思います。障がいのある子ども達のために、各機関がオール札幌となって、今後もがんばっていききたいと思います。 (部会長 北川聡子)

### 「社会的養護の必要な子どもを受け入れている里親・入所施設等関係職員の意見交換会」について

「社会的養護の必要な子どもを受け入れている里親施設・入所施設等関係職員の意見交換会」を25年度から実施しています。児童養護施設、入所施設、自立援助ホーム、母子支援施設、里親、乳児院、相談室等市内30カ所ある施設等の関係者が集まり、ネットワークを目指し研修会や事例検討等の意見交換を行ってきました。今年度も3回実施しました。第一回の研修会は、社会福祉学士 ヘネシー澄子さんから「発達途上のトラウマ障害：予防と愛着の修復の支援」という題で、アメリカの最新情報を交えての講演でした。「虐待は脳器質の発達へ影響し、発達障害とも言える症状が出現する。」というものでした。器質的な発達の遅れと後天的な障害と聞いて、改めて虐待による影響の大きさを知らされました。又、事例検討では、各施設での対応が難しい事例の報告や各施設の取り組み、実情を報告し合い、市内の社会的養護の関係施設がどのような実態にあるかを確認し合ってきました。回を重ね、少しずつですが、関係者と顔見知りになれ、お互いに知らなかった各施設の機能や市内の実態が見え初めてきました。複雑な背景をもつ子ども達への対応は、1つの施設で対応できるものではなく、当会に集う関係者等が全体として受け入れていくような、大きな受け皿で受け止めなければと思います。今後は、当会の継続と、更にネットワークとして有機的に繋がるような会へ進めていければと考えています。

(もなみ学園 宮脇)



## 「子ども部会全体研修会」について

昨年 11 月 17 日（月）18:00～20:00 WEST19 講堂で、子ども部会全体研修会（札幌市児童発達支援センター長会共催）が、会場一杯の参加(490名)を得て開催しました。

前半は、「青年期支援に関わって思う幼児期・児童期支援を考える」のテーマで、こころとそだちのクリニックむすびめの田中康雄氏の講演。後半は、「青年期支援に関わって思う、幼児期・児童期支援に期待すること」のテーマで、青年期支援の関係機関からの提案を基に、発達支援に係わる機関とのシンポジウムを時間ぎりぎりまで行いました。

講演では、主に発達障害の方々がおもつ生活の生きづらさに対して行う、ライフステージ毎の支援、さらに自己の特性を理解し、周囲と折り合いを付けながら生活することの大切さが提案されました。シンポジウムでは、青年期に係わる各機関から、支援での課題が出され、幼児期・児童期の支援では、「地域で共に暮らすこと」「自分を律すること」「他者に対する安心感の醸成」等の大切さが提案されました。

また、今回は児童期から青年期と幅広いライフステージ毎の取り組みや課題が提案されたことで、相談支援の方々の参加が多かったです。  
(むぎのこ 金澤)



## 「教育・福祉・医療の連携に係る課題検討会」について

《公開フォーラム》

2月10日(火) 18:00～20:00 札幌市社会福祉総合センター大研修室

～各分野の実践報告から、障がいを持った子どもの支援と支援者の連携について考える～

助言者：北川聡子氏/ 子ども部会部会長 社会福祉法人麦の子会  
山田浩富氏/ 札幌市教育委員会学校教育課程担当課

指導主事・特別支援教育担当係長

実践報告1（教育から）工藤 雅文 氏/札幌市立新陽小学校

実践報告2（福祉から）二峰 正年 氏/NPO法人かかわり教室

実践報告3（医療から）伊西 夏恵 氏/医療法人稲生会

生涯医療クリニックさっぽろ、  
作業療法士

本人・保護者・教育・福祉・医療の各分野より約200名の参加で実施。昨年度「連携に係る検討会」として取り組み、医療も加え「教育・福祉・医療の連携に係る検討会」として、札幌市自立支援協議会子ども部会のメンバーが中心となって検討してきました。これまでに11月、12月、1月に開催し、話し合いの中で、連携についての課題として「まずはお互いの取組について基本的な事柄を知る機会がない」ということが挙げられ、各分野のベーシックな取組についての報告を盛り込むフォーラムを開催する案が出されました。その後すぐに準備に取りかかり2月10日に「困難さを抱えた子どもの支援について」というテーマで公開フォーラムを実施致しました。当日会場には約200名の来場者があり、「教育」「福祉」「医療」の各分野からの実践報告に続き、連携に有効なツールとして札幌市の「サポートファイルさっぽろ」についての説明がありました。

(真駒内養護 渡部)

